

## 台風被害報告 9 月 2 日

日本共産党 笠岡市議 ひのつ倫子

### え？西本町が半日つかった？

#### 住吉は全滅？

とんでもない被害は、地元金浦だけではなかった。やっと 9 月 2 日、西本町と住吉をお見舞いにまわった。R 高校の子供たちも、テスト前の時間を使ってはや西本町に姿を現していた。ありがたい。用意した軍手が間に合わなかった。どぶ掃除、たたみあげ、ごみ運び、昨日につづいて頑張る子供たち……………。

熱いものがこみ上げる。昼前までのわずかな時間だったが、地域の人たちの励ましになったことは間違いない。この子達は次の日も、授業をカットしてボランティアに汗を流した。決意された先生方にも頭が下がる。



JR 鉄道土手は冠水した西本町西の南の壁。もと井笠鉄道敷と旧国道が三角形を作る。この地域が周囲に比べ、ぐっ

と低い。予想をはるかに超える浸水で、配電盤も水の中、排水機も動かなかった。【写真上】



出口のないすり鉢状態の中、12時間も水は引かなかった。【写真上】

一步地域の小路に入ると、道が下るのがわかる。周囲の壁が高くなるほどに。冠水した水の位置が壁に残る。【写真右】



どの道を通っても、外壁に潮の跡が見える。ここは12時間海となった。アパートが近くにある。1人暮らしのおばあちゃん、家の中、首まで浸かって、レスキュー隊に助けられた。「恐かったなー、おばあちゃん。」声をかけると、「アー、あんな恐かったことはない。」と身震いして応えられた。今はもう、ここには住んでいない。恐くて住めないと言う。【写真上】



住吉地区も同様に、岸壁から水があがり、排水溝から逆流し、地下道に海水はあふれ、駅前の低地部分に吹き上げる。あるお年より、「寝具の冷たさに目を覚ますと、枕元に冷蔵庫が浮かんで見えた。」という。いたるところに積み上げられたごみの山。あちこちで異臭が鼻を突く。どこもつかれきった顔がみえる。「次の日、何がほしいとって、水と食べ物。朝餉を作ろうにも、材料も燃料もない。パン一つの差し入れがどんなにうれしかったか。」と話す地域の人たち。片付けに、ここでも人手が要る。

対策本部に電話した。「個人的に頼むのには限界がある。公的に学校なり、多くの人手が確保できるところに思い切って頼んだらどうか。」